

## 【I テモテへの手紙 1章】

「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた～  
私は罪人のかしらです。」(1:15)

パウロは以前は神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者だったと認め、自分のことを「罪人のかしら」だと心底思っていることが記されています。ユダヤ教の教えにより、クリスチャンを捕らえてエルサレムに連れて行き、脅かし殺害していたのです。今も問題のあるシリアのダマスコに行く途中(しかもクリスチャンを捕縛する為に)天からの光に倒されてしまいます。今までパウロは9、10節にある律法は守っていましたが、真の恵みと愛に満ちておられる神を知りませんでした。この光の中で、今まで迫害していたイエス・キリストに出会い、この方こそ自分が信じていたはずの真の神であることが分かりました。そこで180度の人生の転換がなされ、彼は新生したクリスチャンとなったのです！

私たちはどうでしょうか？本当に自分が罪人のかしらと思っているのでしょうか？神様の光に照らされる時、自分の本当の姿がわかります。光が射せば、この空間がどんなにチリ、ホコリで満ちているかが分かるように、この世の判断で生活している時には見えなかった罪が鮮明にされてきます。私たちもまた、形や程度は違うでしょうが、神を汚す者であり、迫害する者であり、暴力をふるう者であることを認めざるえないでしょう。

パウロは復活の主に出会った時、どんなに自分が罪深いか分かりました。それだけに余計、罪を赦され福音を語る者とされたことが、どんなに大きな神様のあわれみであるか痛切に感じていました。(パウロの手紙には“恵みと平安があるように”と冒頭に言っていますが、このテモテへの手紙だけに“あわれみ”が加えられています。) 12節にはそのあわれみによって福音を伝えるものとされたことに対して感謝を述べています。私たちも、感謝の戦士として、神に成していただいた贖い、赦し、恵みの数々、この世のものではなく、永遠に価値あるものの為に召されている事を丁寧に感謝してゆきましょう。パウロはこのあわれみを受けたのは、これから救われる人の見本にするためであると言っています。

2月5日には恒例の殉教聖会が持たれます。26聖人こそ、パウロに習う良き見本であり、キリストを証しする為に、命を奪われても、永遠の天国への希望を持って、この福音を最後まで伝えつつ、神を賛美しながら天に駆け上がりました！その死を通してこの日本に福音が広まり、そのバトン私達数少ないクリスチャンに委ねられていることを深く覚えてゆきましょう。自分を見たら、何もできない、欠けの多い者かもしれませんが、神様は器として見てくださっているのです！ 聖霊に満たされ、神様の力を頂き、信仰の対応をもって、賜物を訓練し生かして、ますます主の働きに更に加わってゆきましょう。

3日のカリスマ聖会の前に白馬賛美大会関東予選会がありますが、なんと私達のワンボイス・マスクワイヤーは「天の故郷に憧れて」を歌います。殉教聖会にふさわしい選曲です。心を入れてワンボイスになって賛美を捧げてゆきましょう！

\* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。  
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。



# TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:D大重 勝裕

## SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2013.1.27 No.721

今年のみ言葉

天よ。耳を傾けよ。私は語ろう。  
地よ。聞け。私の口のことばを。  
私のおしえは、雨のように下り、  
私のことばは、露のようにしたたる。  
若草の上の小雨のように。  
青草の上の夕立のように。

私が主の御名を告げ知らせるのだから、

**栄光を私たちの神に帰せよ。**

主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。  
主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。

申命記32：1～4



人若し我に従はんと欲せば 己を捨て  
十字架をとりて我に従ふべし マルコ8：34

主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://tlccfrh.astone-blog.jp/>